2021 年 8 月 16 日放送

# 「第 71 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ①
# 大会を終えて」

岐阜大学
名誉教授　清島　真理子

## 学会テーマ　皮膚を科学する

2020 年 10 月 10 日、11 日に第 71 回日本皮膚科学会中部支部学術大会を完全 WEB 形式で開催させていただき、無事終了することができました。ご参加いただいた皆様、ご講演あるいはご発表いただいた皆様に心より感謝申し上げます。本日はこの学会の開催当時の状況を振り返って少しお話したいと思います。

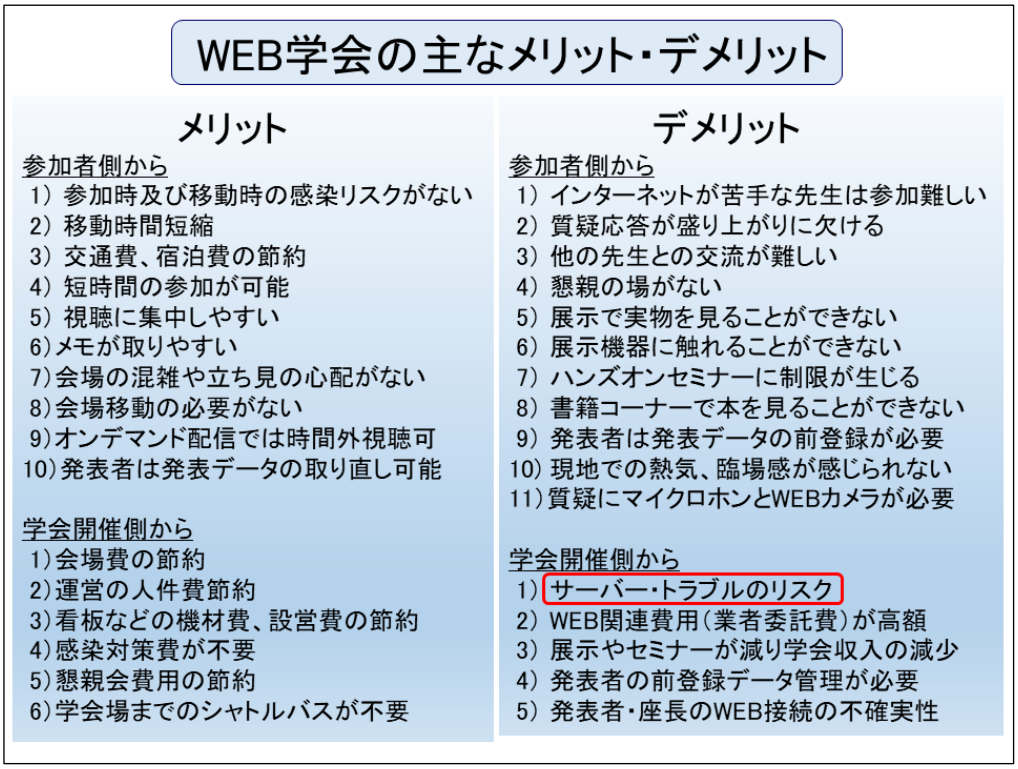
学会準備は学会の 1 年前、2019 年秋から始めました。学会開催に当たりテーマを「皮膚を科学する」としました。皮膚疾患の症状が現れる主体は「皮膚」です。「皮膚」をサイエンスの眼で見つめるといろいろな疑問が沸き起こります。学会参加者同士の意見交換を通して解決へのヒントや新しいアイデイアが生まれることを願ってテーマとしました。

## コロナ禍での新しい学会のあり方

2020 年 3 月には特別講演、シンポジウム、その他を決定し、一部の先生方には内諾を頂戴しておりました。そして一般演題募集のご案内を中部支部の会員の皆様に送らせていただき、順調に準備を進めておりました。

しかし、皆様ご存じのように、2020 年 1 月に新型コロナウイルス（COVID-19）感染者が国内で報告され、その後全国に蔓延し予断を許さない状況となりました。4 月には緊急事態宣言が発出され、また岐阜大学病院で、複数の医師が感染したため 2 週間の全科外来休診の事態となりました。

6 月の日本皮膚科学会総会も完全 WEB 開催となりました。そこで中部支部森脇支部長、日本皮膚科学会天谷理事長にも相談させていただき、最終的に WEB 開催と決定し 7 月にホームページでお知らせしました。3 月以降多くの学会が WEB 開催になり、円滑な運営のための技術・手順が蓄積されていましたが、不安はありました。




WEB 開催の主なメリット・デメリットですが、メリットについて参加者側からは、１）参加時及び移動時の感染リスクがない、２）移動時間短縮、３）交通費、宿泊費の節約、４）短時間の参加が可能、５）視聴に集中しやすい、６）メモが取りやすい、７）会場の混雑や立ち見の心配がない、８）会場移動の必要がない、９）オンデマンド配信では時間外視聴可、10）発表者は発表データの取り直し可能、がありました。

学会開催側からは、１）会場費の節約、２）運営の人件費節約、３）看板などの機材費、設営費の節約、４）感染対策費が不要、５）懇親会費用の節約、６）学会場までのシャトルバスが不要、がありました。

デメリットは、参加者側からは、１）インターネットが苦手な先生は参加が難しい、２）質疑応答が盛り上がりに欠ける、３）他の先生との交流が難しい、４）懇親の場がない、５）展示で実物を見ることができない、６）展示機器に触れることができない、７）ハンズオンセミナーに制限が生じる、８）書籍コーナーで本を見ることができない、９）発表者は発表データの前登録が必要、10） 現地での熱気、臨場感が感じられない、11）質疑にマイクロホンと WEB カメラが必要、がありました。

学会開催側からは、１）サーバー・トラブルのリスク、２）WEB 関連費用（業者委託費）が高額、３）展示やセミナーが減り学会収入の減少、４）発表者の前登録データ管理が必要、５）発表者・座長の WEB 接続の不確実性、といった点が挙げられました。

WEB 開催の最大の心配はサーバー・トラブルでした。当時、WEB 開催の学会でサーバーダウンの事態となることは珍しいことではありませんでした。1 時間程度の場合もありますが、数時間ダウンして混乱した学会もあったと聞きました。

現地開催と WEB 開催両方によるいわゆるハイブリッド開催も考えられました。メリットとして参加者が状況に応じて選択できるという点があります。一方、デメリットとしては高額な WEB 関連費用に加えて現地開催のための人件費、機材費、設営費を支出しなければいけないという点がありました。

学会の３か月前が開催形式を決定するリミットでした。しかし、３か月後の全国および岐阜の状況を予測することはほとんど不可能でした。

そこで、学会開催において最も大切なことは、ご発表、ご講演をトラブルなく完全な形で、参加の皆様に届ける、しかも皆様の健康、安全を担保することと考えました。懸念材料であったサーバー・ダウンに対しては予備のサーバーを準備することにして最終的に完全 WEB に決定いたしました。

## 実際の学会を振り返って

実際の学会を振り返りますと、岐阜大学に関連の深い３名の先生方、東京大学医科学研究所 山田泰広教授、岐阜大学 北島康雄名誉教授、藤田医科大学 斉藤邦明教授に特別講演をお願いし貴重なご講演を賜りました。

シンポジウムでは「難治な common disease」「皮膚がん治療」「乾癬治療の医療連携」「膠原病・血管炎」「アトピー性皮膚炎治療」に焦点を当て、各分野のエキスパートの先生方にホットなご講演をしていただきました。

**第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会特別講演**

| | |
|---|---|
| 1）山田泰広<br>東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究センター先進病態モデル研究分野教授 | 細胞分化とがんの発生<br>～皮膚科医に向けて～ |
| 2）北島康雄<br>岐阜大学名誉教授 | 皮疹の因数分解：コモンディジーズに紛れた希な皮膚疾患を絶対見逃さないために |
| 3）斉藤邦明<br>藤田医科大 大学院保健学研究科教授 | トリプトファン・キヌレニン代謝を基軸とした創薬・診断薬開発～皮膚科免疫関連疾患を視野に入れて～ |

**第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会シンポジウム**

「難治なcommon disease」　「皮膚がん治療」
「乾癬治療の医療連携」　「膠原病・血管炎」
「アトピー性皮膚炎治療」

教育講演は８名の先生方にお願いし、いずれも最先端の有益なお話をしていただきました。また 26 の共催セミナーを企画いたしました。一般演題については時間の許す限り質疑・討論をお願いしました。しかし、企画しておりましたハンズオンセミナーと企業展示は断念せざるを得ませんでした。

**第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会教育講演**

| | |
|---|---|
| 1）矢部大介<br>岐阜大学内分泌代謝病態学教授 | 我が国における糖尿病の現状と皮膚科との診療連携の必要性 |
| 2）馬場尚志<br>岐阜大学附属病院生体支援センター教授/センター長 | 適切な感染制御を目指して<br>～変化する社会、変わらない基本～ |
| 3）椛島健治<br>京都大学皮膚科教授 | 皮膚免疫を科学する |
| 4）山上　淳<br>慶應義塾大学皮膚科専任講師 | ここまでわかってきた天疱瘡 |
| 5）秋山真志<br>名古屋大学皮膚科教授 | 角化症を科学する |
| 6）田中　勝<br>東京女子医大東医療センター教授 | 進化するダーモスコピー |
| 7）青山　裕美<br>川崎医大皮膚科教授 | 汗と痒みを科学する |
| 8）阿部理一郎<br>新潟大学皮膚科教授 | 薬疹を科学する |

## おわりに

結果的に一般演題は口頭、ポスター合わせて 184 題、参加登録者数は 1,656 名で、例年と変わりない数字となりました。

本学会の準備、運営、開催にあたりご尽力をいただいた、事務局長の周先生、実行委員の皆さん、岐阜大学皮膚科学教室および同窓会の皆様、秘書の高田さん、そして、山田さんをはじめとする日本皮膚科学会 学術大会チームの皆さんに厚くお礼申し上げます。

学会から 10 か月経って振り返りますと、学会のあり方についていろいろ考える機会が与えられて有意義であったと思っています。人の移動や集合なしに学術交流を活発に行う、WEB という新しい学会形式が今後も必要に応じて選択される方向へ向かうのではないかと考えています。

**第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会を終えて**

一般演題数：
　口頭、ポスター合わせて184題
参加登録者数：1656名
　（過去4年間の平均1642.8名）

WEB開催：人の移動や集合なしに学術交流を行う、新しい学会形式
→今後も必要に応じて選択される方向へ

新型コロナウイルス感染は地域差もありますが、まだ収束には至っておりません。その状況下でも皮膚科診療を待つ患者さんは多数おられますし、教育を待つ医学部生、研修医がいます。また、研究は常に前進する必要があります。「皮膚科学」は日々進歩しています。新しい疾患概念、新しい診断・治療ガイドライン、そして新薬が充実してきました。これらの情報および知見に基づいた、良質の皮膚科医療を少しでも早く、皮膚疾患で悩んでいらっしゃる多くの患者さんに届ける、そのお役に立てたら幸いに存じます。

本学会が無事に終了できたことに対し、多くの皆様に改めて心から感謝申し上げます。